

あなたのご家族（兄弟・姉妹・父母・祖父母）に八中の卒業生がいたら見せて下さい。

変わる社会 2・6・2の原理で変化する



社会が変化する時は、必ずこの2・6・2の原理が働いている。まず左の図を見て下さい。この白から黒への変化が分かりますか。両脇は白と黒です。中間が灰色。

そしてこの図は白が20%、灰色が60%、黒が20%。現実の社会で例えると、右派に左派、与党に野党という具合です。そして実際主流となるには、この中間の60%、選挙で言えば60%の浮動票を味方につけるかどうか、決め手となります。変化に動くのは中間の人々です。

時にこの白と黒の主流派と反主流派は逆転します。これは大きな出来事での社会不安の影響がこの中間層を動かすのです。近年で見ると、①【1991年のバブル崩壊】で自民党が連立政権に変わります。しかし、②【1995年の神戸大震災】で自民党に戻ります。ところが、④【2008年にリーマンショック】が起これば、また民主・国民党と変わります。今度はあの④【東北大震災が2011年】が発生すると、2012年第一次安倍内閣に変わりました。

この様な大きな出来事が、不安・貧困・格差・失業等に影響を及ぼし、人々は現状の体制から反体制への期待となるのです。まあ良くない時は、変えて見ようと言うことです。

左の図は、上流・中流・下流を表したものです。これも上流20%・中流60%・下流20%となります。白の20%の内の20%は超リッチ（全体の4%）、黒も同様で全体の4%は極貧。世界の人口の10%の難民（約8億人）は、黒の下流に属します。

日本ではこの30年間に給料が上がらず、中流の上位が多かったのが、中流の下位の方方向かって落ちてきています。これは一言で言えば、グローバル化による途上国の躍進です。つまりグローバル化による生産拠点が、途上国（中国・インド・ベトナム等の途上国）に移り、彼らの所得上昇分に充当された。（東南アジアが多いので、日本への影響は大きい）

この様な現象の下で、グローバル社会の行きつく先は、世界が等しく貧しくなるということも言われています。（所得の平均化は、中の下で止まり易い）

ではコロナ・ロシア侵攻という大きな変化の中で、何故変化しない。台頭すべき反主流派のリーダーシップ力及び結束力の欠如。更には上記の変化で、反主流派の主流派変更に期待が膨らまないという不幸が重なり、3年で3人の変化にとどまっている。



1949年（昭和24年）新屋台完成時

松江町 現在の中区中央3丁目辺り。

町の由来は、鳥居の形をした松。旅人が振り返って見た松。足利将軍が馬を止めた駒込の「松」が存在していたことと、馬込川が大きな河である「江」に通じる意味があるといわれる。

新屋台は、1949年（昭和24年）、戦後浜松で最初に造られた屋台である。

八幡中学校同窓会事務局 代表 白井 鉄男
連絡先：〒430-0928

浜松市中区板屋町612-402

TEL/FAX：(053) 489-6391

ironman29@hotmail.co.jp

八幡中学のホームページに「同窓会だより」のコーナーがあり、スマホやパソコンで見られます。皆様の友人や同級生にも教えてあげて下さい。この「同窓会だより」は毎月発行します。